



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

北海道大学低温科学研究所教員

1. 助教授 1 名
2. (1) 低温基礎科学部門
(2) 札幌市
3. 理論、実験などの手法による氷および関連物質の物性科学的研究と地球惑星科学、天文学への応用
5. なるべく早い時期
7. (1) 履歴書、(2) 研究業績目録（査読論文、総説、著書、その他などに分ける）、(3) 主要論文別刷（コピー可）5 編以内、(4) 科学研究費などの採択状況、(5) 国内外の学会などでの活動状況、(6) これまでの研究概要と成果（2,000 字程度）、(7) 着任後の研究計画、研究展望、抱負など（2,000 字程度）
8. 2004 年 11 月 1 日（月）必着
9. (1) 〒060-0819 札幌市北区北 19 条西 8 丁目
北海道大学低温科学研究所長 本堂武夫
(2) 北海道大学低温科学研究所 山本哲生
Tel: 011-706-5474
E-mail: ty@lowtem.hokudai.ac.jp
10. 「低温基礎科学部門助教授応募書類」と朱書き、書留で郵送のこと。
11. 研究所の概要、関連する研究分野のスタッフについては、当研究所のホームページ（<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/>）をご覧ください。

研究助成

第 7 回大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集要項

趣旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998 年に設けられたものです。

対象：自然科学分野において、優れた研究成果を上げており、科学の発展に貢献することが期待される 40 歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。

授賞件数：年 2 件以内

賞状および副賞 50 万円を贈呈します。

提出書類：1. 推薦状、2. 履歴書（写真添付）、3. 研究業績リスト、4. 主要な論文別刷 5 編以内（それぞれ 3 部（コピーでも可）、5. 研究題目とその概要および今後の展望と抱負を記したもの（A4 判 2 頁以内）。

応募締切日：2004 年 11 月 30 日（火）（必着）

書類送付先および連絡先：（社）大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町 11 番 6 の 101

TEL: 03-3358-2882, Fax: 03-3358-2889

2005 年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞および奨励賞」受賞候補者の推薦依頼について

「女性科学者に明るい未来をの会」から標記の依頼が届いております。詳細は下記事務所までお問い合わせ下さい。

〈猿橋賞〉

1. 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者（ただし、下記の推薦締切日で 50 歳未満）に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞金（30 万円）を添えます。
3. 本賞の贈呈は 1 年 1 件（1 名）です。

4. 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（400字程度）、略歴、主な業績リストおよび推薦者氏名・肩書きを記入して、主な論文別刷10編程度を添えて、本会事務所までお送り下さい。
5. 締切は2004年11月30日（必着）
6. 第25回の賞贈呈式は、2005年5月、東京において行う予定です。

〈奨励賞〉

1. 推薦締切日に35歳未満で自然科学の分野で優れた研究業績を挙げ、将来の発展が期待される若手研究者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞金10万円を添えます。
3. 本賞の贈呈は1年1件（1名）です。
4. 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（300字程度）、略歴、研究業績リストおよび推薦者氏名・肩書きを記入して、主な論文別刷2編程度を添えて、本会事務所までお送り下さい。
5. 締切は2004年11月30日（必着）
事務所：女性科学者に明るい未来をの会
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217
Tel/Fax: 03-3330-2455

万円を限度とします。

4. 募集対象
平成17年4月1日現在、35歳以下の者であって、次の条件を満たす者。ホームページを参照下さい。
5. 申請書
所定の「平成17年度笹川科学研究助成交付申請書」を使用して下さい。申請書はホームページからダウンロードできます。郵送をご希望の方はE-mailかFaxでお申し込み下さい。
6. 募集期間
平成16年9月1日（水）から平成16年10月15日（金）《必着》までとします。
7. その他
申請条件、選考方法、決定通知、助成の対象となる研究者、交付方法、助成交付金、決定後の主な手続きなど、詳細はホームページを参照下さい。
財団法人日本科学協会笹川科学研究助成係
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2
日本財団ビル5F
Tel: 03-6229-5365, Fax: 03-6229-5369
E-mail: jss@silver.ocn.ne.jp
URL: http://www.jss.or.jp

研究会・集案案内

平成17年度笹川科学研究助成募集要項

1. 趣旨
「笹川科学研究助成」は、21世紀を迎えて真に質の高い社会の実現のため萌芽性、新規性および独創性のある内容をもった研究を奨励し、振興することを主旨とし、ほかからの研究助成が受けにくい研究を全国的に掘り起こすとともに、意欲に満ちた優れた若手研究者の育成ならびにその研究に対する助成を目的とします。
2. 対象となる領域ならびに申請区分
人文科学、社会科学および自然科学（医学を除く）、またはそれらの境界領域に関する研究で、申請は次の3通りに分かります。
A 一般科学研究
B 特別奨励研究
(a) 学芸員・図書館司書などが行う研究
(b) 海洋・船舶科学研究
3. 研究計画と助成額
研究計画は、申請者が主体になって行う研究で単年度（平成17年4月1日から平成18年2月10日まで）内で研究が完了し、成果をとりまとめられるものとします。助成額は1研究課題あたり年間100

「太陽宇宙デジタルライブ」京都大学花山・飛騨天文台連携同時一般公開のお知らせ

京都大学花山天文台と飛騨天文台では、来る10月23日に同時に連携して一般公開を行います。施設の公開・展示陳列と天体観望会を行い、また、ネットワークを経由して両天文台で観測された天体画像を相互にリアルタイムで上映します。花山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明しますので、お気軽にお越し下さい。

〈一般公開〉

日時：2004年10月23日（土）13:00～20:30

場所：(1) 京都市山科区北花山大峰町

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台

(2) 岐阜県吉城郡上宝村蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台
公開施設と内容：花山・飛騨天文台の主要な観測施設、研究施設などの公開および展示陳列、望遠鏡による天体観望、分光器製作や太陽黒点スケッチなどの各種体験コーナー。

天体観望会：

(1) 花山天文台

13:00~16:00

ザートリウス 18 cm 屈折望遠鏡および 70 cm シーロスタット分光望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。太陽黒点スケッチの実習。

飛騨天文台で観測された太陽像のネットワークによるリアルタイム上映。

18:00~20:30

45 cm 屈折望遠鏡による天体観望 (月)。

(2) 飛騨天文台

13:00~16:00

ドームレス太陽望遠鏡, フレアモニター望遠鏡, および, 太陽磁場活動望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。花山天文台で観測された太陽像のリアルタイム上映。

18:00~20:30

65 cm 屈折望遠鏡および 60 cm 反射望遠鏡による天体観望 (月など)

交通機関:

(1) 花山天文台: 京都市営地下鉄東西線蹴上駅より徒歩 30 分

蹴上駅一花山天文台間はシャトルバス (無料) を運行します。または, 京阪三条駅よりタクシー約 10 分 (約 1,300 円)。

(2) 飛騨天文台: 公共交通機関がないので自家用車でお越し下さい。(高山市から車で約 1 時間)

申込方法:

(1) 花山天文台見学は, 事前申し込みは不要です。

Tel: 075-581-1235, Fax: 075-593-9617

(2) 飛騨天文台見学希望の方は, 10 月 16 日までに, 往復ハガキに住所, 氏名, 電話連絡先, を書いて申し込んで下さい。(団体の場合は代表者の住所, 氏名, 電話連絡先のほかに, 見学者の総数と各人の氏名も漏れなく記入して下さい。)

先着 100 名まで受け付けます。ハガキの宛先は,

〒506-1314 岐阜県吉城郡上室村蔵柱

京都大学飛騨天文台

Tel: 0578-6-2311, Fax: 0578-6-2118

〈花山・飛騨天文台のホームページ〉

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp>

京都大学 21 世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」 第 2 回市民講座 「宇宙と物質の神秘に迫る—物理科学最前線—」

物質は何からできているのか, 追求していくと, 微小な素粒子, すなわち, 量子の世界に行き着きます。宇宙はいかにして始まったのか, という疑問も, 膨張

宇宙の過去をさかのぼることによって, 結局, 微小な量子の宇宙に行き着いてしまいます。一方, 量子の世界はわれわれの日常の世界にも時折顔を出すことがあります。昨今ニュースをにぎわす超伝導—電気抵抗ゼロの状態—がそれです。本市民講座では, これらの 3 種類の「量子の世界」, すなわち, 素粒子, 宇宙, 超伝導について, 世界の最先端で活躍中の京大の研究者の方々に, 最新の研究成果の紹介を交えながら, わかりやすく解説していただきます。是非ご参加下さい。

日 時: 2004 年 11 月 7 日 (日) 13:00~17:00

場 所: 京都大学百周年時計台記念館 (大ホール)

講演プログラム: 特集テーマ「量子の世界」

1. 川合 光 (京大理学研究科教授)

超ひも理論: 究極の自然法則がみつかった?!

2. 佐々木 節 (京大基礎物理学研究所教授)

宇宙はどうやって始まったか?

3. 前野悦輝 (京大国際融合創造センター教授)

超伝導の不思議

なお講演終了後, 午後 17:00~18:30 に, 講師

の方々と歓談できる簡単な茶話会 (会費 500 円) を, 時計台記念館会議室 III にて開く予定です。

(茶話会にご参加下さる方は, 事前に事務局までお申し込み下さい。)

対 象: 中高生以上

受講料: 無料

定 員: 500 名 (申込多数の場合は, 申込ハガキまたは電子メール先着順)

申込方法: 往復ハガキまたは電子メールに, 住所, 氏名, 年齢, 職業, 電話番号, 茶話会への出席希望, を記入の上, 下記にお送り下さい。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科 物理学第二教室内

京都大学 21 世紀 COE 市民講座「宇宙と物質の神秘に迫る」係

Tel: 075-753-3758

E-mail: shimin@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp

申込締切: 11 月 1 日 (月) 必着。定員オーバーの節はご了承下さい。

交 通: 会場の京都大学時計台には公共交通機関でお越し下さい (バス停「京大正門前」より徒歩 5 分)。会場までの地図については

<http://www.kyoto-u.ac.jp/access/kmap/map1f.htm>

主 催: 京都大学 21 世紀 COE 「物理学の多様性と普遍性の探求拠点」

<http://physics.coe21.kyoto-u.ac.jp/>

後 援: 京都新聞社, 物理教育学会, 天文教育普及研

研究会

世話人：柴田一成（京大理附属花山天文台），太田耕司（京大理宇宙物理学教室），田中耕一郎（京大理物理学第一教室），鶴 剛（京大理物理学第二教室），国友 浩（京大基礎物理学研究所）

会 務 案 内

【2004 年度秋季通常総会開催のお知らせ】

正会員各位

社団法人日本天文学会 理事長 松田卓也

一綴じ込みの返信用葉書で 9 月 15 日（水）
までに到着するようご投票を！—

下記のとおり 2004 年度秋季通常総会を開催いたしますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の 5 分の 1 以上の出席が必要です（定款第 42 条）。欠席される場合には、下記の議案をよくお読みの上、次の (1) または (2) のどちらかの対応して下さい。いずれの場合も、総会出席とみなされます。

(1) 綴じ込みの総会返信用葉書（以下「葉書」と呼ぶ）を用いて賛否の意志を表明する。

(2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。

「葉書」は、9 月 15 日（水）までに天文学会事務所に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。

○「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない正会員は、綴じ込みの総会返信用「葉書」で議案に対する賛否の意志表示をするか、委任状を提出して下さい。（委任状には特に指定の用紙はありません。）

賛否の意志表示をされる方は、それぞれの議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて事務所宛にお送り下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えません。

1) 所定の「葉書」を用いないもの。

2) 会員番号、住所（または勤務先）の両方を欠くもの。

3) 氏名を自署していないもの。

4) 投票権のない者からの投票（正会員以外の者）。

5) 2 重投票。

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。

2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。

2) 委任正会員の会員番号、住所（または勤務先）の両方を欠くもの。

3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。

4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。

5) 被委任正会員として、単に役職名の“理事長”または“議長”と書かれたもの。

○2004 年度秋季通常総会

日 時：2004 年 9 月 22 日（水）

総会出席者確認：16:00～16:30

総会開始 16:30～

場 所：岩手大学上田キャンパス人文社会学部
5 号館 1 階（A 会場）

注 意：総会出席確認作業の時間中に会場へ入場して下さい。確認された方には表決の時に必要な札をお渡しします。

○議案と報告（本誌 546 頁から 550 頁まで参照）

議 案：

第 1 号議案 新役員（理事・監事）の選任

第 2 号議案 選挙管理委員の承認

第 3 号議案 2005 年度事業計画書（案）

第 4 号議案 2005 年度収支予算書（案）

報 告：

各種委員会委員

[第1号議案]

新役員（任期：2005年1月1日～2006年12月31日）

敬称略

1) 理事

理事長：祖父江義明

副理事長：井上 一，黒田武彦

庶務理事：花岡庸一郎，杉山 直（留任）

会計理事：北本俊二，関井 隆（留任）

PASJ 理事：蜂巢 泉（留任）

月報理事：和田桂一

年会実行理事：百瀬宗武

天文教育理事：田 光江（留任）

年会開催地理事：成相恭二（明星大学），馬場直志（北海道大学），富田晃彦（和歌山大学），浅田 正（九州国際大学）

2) 監事

家 正則，尾中 敬

[第2号議案]

選挙管理委員（任期：2005年1月1日～2006年12月31日）敬称略

富阪幸治（委員長），新井宏二，上田暁俊，鹿野良平，白崎裕治

[第3号議案]

日本天文学会 2005 年度事業計画書（案）

（2005年1月1日～12月31日まで）

1. 出版物の刊行

1) 欧文研究報告

第 57 卷 1 号～6 号，隔月刊，A4 判，発行部数 1,850，年間 1,300 ページ

2) 天文月報

第 98 卷 1 号～12 号，月刊 B5 判，発行部数 3,200，毎号 58 ページを予定

3) 年会講演予稿集

春・秋季年会の講演予稿集 2 巻，発行部数各 850 を予定

4) ジュニアセッション予稿集

春季年会予稿集発行部数 500 を予定

5) 公開講演会冊子

春秋の公開講演会に配付する冊子各 400 部

2. 年会・総会の開催

1) 春季年会を 2005 年 3 月 28 日（月）から 30 日（水）にわたって，明星大学（東京都日野市，開催地理事：成相恭二）にて開催する。年会期間中に通常総会とジュニアセッションおよび天文教育フォーラムを開催する。また，公開講演会を 3 月 27 日（日）に予定。

2) 秋季年会を 2005 年 10 月 6 日（木）から 8 日（土）にわたって，北海道大学（開催地理事：馬場直志）がホストになり札幌コンベンションセンターを会場として，開催する。また，年会期間中に通常総会とジュニアセッション（ポスターのみ）を開催する。公開講演会は 10 月 9 日（日）に予定。

3. 評議員会，理事会

1) 評議員会：1 月中旬，7 月中旬および春・秋季年会中に開催予定

2) 理事会：1 月上旬，7 月上旬および春・秋季年会中に開催予定

4. 各賞の授与

1) 天体発見賞・天体発見功労賞

新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功労賞を授与する。

2) 日本天文学会研究奨励賞

特に顕著な研究成果を上げた若手研究者（3名以内）を選定し研究奨励賞を授与する。

- 3) 日本天文学会林 忠四郎賞
天文学の分野において独創的で、かつ分野に寄与するところの大きい研究に対して林 忠四郎賞を授与する。
- 4) 日本天文学会欧文研究報告論文賞
日本天文学会欧文研究報告に掲載された論文の中から、特に優れた論文の著者に対して欧文研究報告論文賞を授与する。
- 5) 日本天文学会天文功労賞
天体観測活動などが、天文学の進歩および普及に寄与したことに對して授与する（長期的業績1名、短期的業績複数名）。

5. 助成金

- 1) 内地留学奨学金受給者の募集（主にアマチュアを対象）を行い、年内に選考し奨学金を支給する。
- 2) 早川幸男基金により、若手天文研究者の海外に於ける観測、国際共同研究、もしくは研究発表のための渡航費の援助を行う。
- 3) 賛助会員会費により、学生等の年会（春秋）発表者の旅費補助をする。

6. 各種委員会（メンバーは「報告」の項参照）

- 1) 欧文研究報告編集顧問：10名
- 2) 欧文研究報告編集委員会：10名
- 3) 天文月報編集委員会：10名
- 4) 年会実行委員会：10名
- 5) 天文教育委員会：9名
- 6) 選挙管理委員会：5名
- 7) 林忠四郎賞選考委員会（欧文研究報告論文賞を含む）：6名
- 8) 研究奨励賞選考委員会：5名
- 9) 天体発見賞選考委員会（天文功労賞を含む）：6名
- 10) 内地留学奨学金選考委員会：6名
- 11) 早川幸男基金選考委員会：5名
- 12) ネットワーク委員会：2名
- 13) 天文教材委員会：8名
- 14) 創立100周年記念出版編集委員会：17名
- 15) ジュニアセッション実行委員会：5名

7. 後援事業

- 1) 他の学術団体等の天文関係諸企画に対して、可能な限り後援・協賛をする。

8. その他

- 1) 2008年（平成20年）は、天文学会創立100年目に当たる。理事会が中心となってワーキンググループを作り、記念事業の検討を始める。
- 2) 平成18年度科学研究費補助金審査委員として適切な研究者情報の提供を行う。
- 3) 民間財団等の、研究助成公募および天文学に関連した賞に対して、優れた研究者を学会から積極的に推薦する。

[第4号議案]

日本天文学会 2005 年度収支予算書 (案)

(2005 年 1 月 1 日～12 月 31 日まで)

《一般会計》

[収入の部]

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
基本財産運用収入	4,000	4,000
基本財産利息収入	4,000	4,000
会 費 収 入	36,520,000	35,270,000
正会員会費	21,960,000	21,060,000
正会員(学生)会費	4,550,000	4,160,000
準会員会費	9,600,000	9,600,000
団体会員会費	410,000	450,000
事 業 収 入	26,544,000	25,665,800
欧文研究報告発行事業収入	14,144,000	14,065,800
購 読 料	4,216,000	4,258,800
掲 載 料	8,563,000	7,791,000
別 刷 代	1,365,000	2,016,000
天文月報発行事業収入	3,850,000	3,800,000
購 読 料	550,000	800,000
別 刷 代	1,000,000	1,000,000
広 告 料	2,300,000	2,000,000
年会事業収入	8,550,000	7,800,000
予稿集頒布収入	2,600,000	2,600,000
登 録 料	5,900,000	5,100,000
年会雑収入	50,000	100,000
補助金等収入	9,160,000	8,520,000
定期刊行物補助金	7,900,000	7,200,000
公開講演会補助金	1,260,000	1,320,000
寄 付 金 収 入	150,000	150,000
寄付金収入	150,000	150,000
印 税 収 入	2,030,000	2,005,000
星座早見印税	2,000,000	2,000,000
その他の印税	30,000	5,000
雑 収 入	701,000	703,000
受取利息	1,000	3,000
特別企画収入	500,000	500,000
その他の収入	200,000	200,000
特定預金取崩収入	0	0
減価償却預金取崩	0	0
退職預金取崩	0	0
当期収入合計 (A)	75,109,000	72,317,800
繰越収支差額	33,594,945	22,550,803
収入合計 (B)	108,703,945	94,868,603

[支出の部]

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
事 業 費	52,057,000	49,270,000
欧文研究報告発行事業費	26,807,000	25,570,000
直接出版費	14,462,000	14,254,000
別刷印刷費	624,000	998,000
人 件 費	5,450,000	4,100,000
謝 金	4,121,000	3,918,000
送料運搬費	1,800,000	2,000,000
消耗品費	200,000	200,000
雑 費	150,000	100,000
天文月報発行事業費	17,100,000	15,400,000
直接印刷費	8,500,000	7,200,000
別刷印刷費	800,000	800,000
人 件 費	1,300,000	1,300,000
謝 金	2,700,000	2,600,000
送料運搬費	3,000,000	2,700,000
消耗品費	500,000	500,000
雑 費	300,000	300,000
年会事業費	8,150,000	8,300,000
予稿集印刷費	2,000,000	2,000,000
謝 金	1,150,000	1,150,000
送料運搬費	250,000	250,000
会 場 費	2,200,000	2,400,000
消耗品費	350,000	300,000
人 件 費	1,300,000	1,300,000
雑 費	200,000	200,000
旅費交通費	300,000	300,000
保育室運営経費	200,000	200,000
ジュニアセッション経費	200,000	200,000
管 理 費	17,833,000	19,970,000
人 件 費	7,300,000	7,500,000
謝 金	200,000	500,000
会 議 費	300,000	200,000
負 担 金	10,000	0
旅費交通費	1,035,000	950,000
送料通信費	700,000	1,300,000
什器備品費	700,000	1,000,000
消耗品費	1,000,000	1,100,000
印刷製本費	500,000	700,000
光熱水料費	250,000	250,000
賃 借 料	1,650,000	1,750,000
保 険 料	15,000	150,000
諸 手 数 料	350,000	500,000
修 繕 費	50,000	100,000
書籍購入費	300,000	150,000
特別企画調製費	350,000	200,000
公開講演会諸経費	1,260,000	1,320,000
天体発見賞等経費	800,000	700,000
雑 費	200,000	200,000
学術交流費会計へ繰入	0	1,400,000
福利厚生費	863,000	0
退職金支出	0	0
特定預金支出	430,000	1,208,000
減価償却預金引当支出	0	1,000,000
退職引当預金支出	430,000	208,000
予 備 費	38,383,945	24,420,603
当期支出合計 (C)	108,703,945	94,868,603
当期収支差額 (A) - (C)	-33,594,945	-22,550,803
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	0

《特別会計》

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度予算額
学術交流費 基金会計	収入の部		
	賛助会員会費収入	1,350,000	1,200,000
	一般会計より繰入収入		1,400,000
	受取利息	10	100
	当期収入合計(A)	1,350,010	2,600,100
	繰越収支差額	626,224	828,458
	収入合計(B)	1,976,234	3,428,558
	支出の部		
	学術交流費	1,350,000	1,400,000
	雑費	1,000	1,000
	当期支出合計(C)	1,351,000	1,401,000
当期収支差額(A)-(C)	-990	1,199,100	
次期繰越収支差額(B)-(C)	625,234	2,027,558	
内地留学奨学 基金会計	収入の部		
	受取利息	500	1,000
	当期収入合計(A)	500	1,000
	繰越収支差額	3,792,787	3,876,006
	収入合計(B)	3,793,287	3,877,006
	支出の部		
	奨学金支出	250,000	250,000
	雑費	2,000	2,000
	旅費支出	0	10,000
	当期支出合計(C)	252,000	262,000
	当期収支差額(A)-(C)	-251,500	-261,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,541,287	3,615,006	
研究奨励賞 基金会計	収入の部		
	寄付金収入	10,000	10,000
	受取利息	10	50
	当期収入合計(A)	10,010	10,050
	繰越収支差額	4,911,059	5,471,909
	収入合計(B)	4,921,069	5,481,959
	支出の部		
	研究奨励賞賞金	300,000	300,000
	雑費	15,000	15,000
	旅費支出	50,000	20,000
	当期支出合計(C)	365,000	335,000
当期収支差額(A)-(C)	-354,990	-324,950	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,556,069	5,146,959	
早川幸男 基金会計	収入の部		
	寄付金収入	1,000,000	1,000,000
	受取利息	6,000	7,000
	当期収入合計(A)	1,006,000	1,007,000
	繰越収支差額	29,573,648	28,089,640
	収入合計(B)	30,579,648	29,096,640
	支出の部		
	研究補助支出	2,700,000	2,700,000
	雑費	10,000	10,000
	当期支出合計(C)	2,710,000	2,710,000
	当期収支差額(A)-(C)	-1,704,000	-1,703,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	27,869,648	26,386,640	

会計種目	科目	予算額	前年度予算額
林忠四郎賞 基金会計	収入の部		
	受取利息	3,000	3,000
	当期収入合計(A)	3,000	3,000
	繰越収支差額	13,978,532	14,360,857
	収入合計(B)	13,981,532	14,363,857
	支出の部		
	林賞賞金	300,000	300,000
	雑費	20,000	20,000
	旅費支出	100,000	150,000
	当期支出合計(C)	420,000	470,000
	当期収支差額(A)-(C)	-417,000	-467,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	13,561,532	13,893,857	
創立100周年 記念出版事業 基金会計	収入の部		
	受取利息	200	100
	当期収入合計(A)	200	100
	繰越収支差額	29,807,244	30,000,022
	収入合計(B)	29,807,444	30,000,122
	支出の部		
	出版経費	0	0
	雑費	45,000	60,000
	旅費支出	264,000	400,000
	当期支出合計(C)	309,000	460,000
	当期収支差額(A)-(C)	-308,800	-459,900
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,498,444	29,540,122	

[報告]

各種委員会委員名簿

(◎◎は委員長, ◎理事兼務, 敬称略)

(任期: 2005年1月1日~2006年12月31日)

- 1) 欧文研究報告編集顧問: 10名
有本信雄, 池内了, 大橋隆哉, 岡村定矩, 小山勝二, 桜井隆, 佐藤勝彦, 祖父江義明, 土佐誠, 福井康雄
- 2) 欧文研究報告編集委員会: 10名
◎蜂巢 泉, 梅村雅之, 嶋作一大, 堂谷忠靖, 中井直正, 花見仁史, 藤田 裕, 嶺重 慎, 横山順一, 横山央明
- 3) 天文月報編集委員会: 10名
◎和田桂一, 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田智, 矢野太平
- 4) 年会実行委員会: 10名
◎百瀬宗武, 加藤万里子, 河野孝太郎, 清水敏文, 鈴木知治, 田村隆幸, 中本泰史, 根来 仁, 本原顕太郎, 山村一誠
- 5) 天文教育委員会: 9名
◎田 光江, 加藤万里子, 鈴木文二, 高橋 淳, 坪井陽子, 松下恭子, 毛利勝廣, 望月優子, 森 淳
- 6) 選挙管理委員会: 5名 (再掲載)
◎富阪幸治, 新井宏二, 上田暁俊, 鹿野良平, 白崎裕治
- 7) 林忠四郎賞選考委員会 (欧文研究報告論文賞を含む): 6名
佐藤勝彦, 小山勝二, 祖父江義明, 野本憲一, 舞原俊憲, 松田卓也
- 8) 研究奨励賞選考委員会: 5名
◎河合誠之, 井田 茂, 太田耕司, 須藤 靖, 水野 亮
- 9) 天体発見賞選考委員会 (天文功労賞を含む): 6名
◎山岡 均, 綾仁一哉, 石田俊人, 相馬 充, 中野圭一, 渡部潤一
- 10) 内地留学奨学金選考委員会: 6名
◎西村昌能, 大島 修, 岡崎 彰, 加藤太一, 河北秀世, 柴田晋平
- 11) 早川幸男基金選考委員会: 5名
◎半田利弘, 粟木久光, 梅村雅之, 増田 智, 山田 亨
- 12) ネットワーク委員会: 2名
◎花岡庸一郎, 鈴木知治

- 13) 天文教材委員会: 8名
◎富田晃彦, 縣 秀彦, 石田俊人, 井田 茂, 阪本成一, 土橋一仁, 根来 均, 山岡 均
- 14) 創立100周年記念出版事業編集委員会: 17名
◎岡村定矩, 家 正則, 池内了, 井上一, 小山勝二, 桜井 隆, 佐藤勝彦, 祖父江義明, 野本憲一, 長谷川哲夫, 福井康雄, 福島登志夫, 二間瀬敏史, 舞原俊憲, 水本好彦, 観山正見, 渡部潤一
- 15) ジュニアセッション実行委員会: 5名
◎吉川 真, 小野智子, 篠原秀雄, 永井智哉, 松本直記

【理事会議事録】

日 時: 2004年7月3日(土) 11:00~16:55

場 所: 国立天文台三鷹大会議室

出席者: 松田, 祖父江, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土橋, 田, 蜂巢, 谷口, 粟木, 花見

欠席者: 若松

有効委任状提出者: 土居, 佐藤

その他オブザーバーとして, 百瀬宗武氏, 成相恭二氏, 事務局より東條事務長が出席した。

議事に先立ち, 議長および署名人を選出した。

議 長: 松田卓也

署名人: 杉山 直, 郷田直輝

報 告

1. 前回議事録の確認 (資料1)
杉山理事より前回 (2004年3月22日) の理事会議事録が報告され, 原案通り承認された。
2. 2004年秋季以降の年会について
花見理事より, 部屋の割り振りや天文月報への案内等の秋季年会の準備状況について説明があり, 注意事項について意見交換が行われた。続いて成相氏より, 2005年春の年会について, 部屋や設備, 公開講演会などの準備状況について説明があった。
3. 大学入試センター試験「地学」出題方式に関する要望書について (追加資料)
杉山理事より, 要望書作成の経緯と内容の説明があった。2006年度以降, 大学入試センター試験において, 地学Iと物理Iを同時に選択することができなくなることにに関して, 日本天文学会も協賛している地球惑星科学関連学会合同大会参加20学会会長・理事長名により, 大きな危惧を抱いていることの表明と, 合わせて制度の変更を求める声明文を,

文部科学大臣宛に送付する。

4. その他

(ア) 男女共同参画協会連絡会（追加資料）

天文学会も協力したアンケートの結果が資料としてまとまったので、披露された。

(イ) 100周年記念出版事業第一次案について

祖父江副理事長より、第一次案が出来上がったこととその内容について説明があり、若干の修正意見などが出された。修正された第一次案について、日本天文学会会員に向け広くアンケートを行うが、その方法に関しては、天文月報に差し込むと同時に、tennetで配布することとなった。

(ウ) 財務規程案についてほか、会計担当理事からの報告

関井理事より、前回理事会にて承認され、評議委員会では時間がなかったため議論されなかった財務規程案について、次回の評議委員会に前回と同じ案を提出することの報告があった。つづいて日本天文学会が納めるべき消費税に関して、これまで手違いで納付されていなかった2002年度、2003年度分を納めたことの事情説明があった。最後に、院生に関する旅費補助について、秋に若手代表からの申し入れが来る予定であるとのこと。

(エ) 日本衛星フォーラム

田理事より、同フォーラム実行委員会にオブザーバーとして参加したことの報告があった。次年度からの日本天文学会への正式な参加依頼が行われる見通しである。

議 題

1. 新入会員の承認（資料2）

杉山理事より、資料に基づき、新会員の入会が承認された。合わせて、退会者の報告があった。

2. 新役員候補者（資料3）

松田理事長より、実務理事会の審議を経た新役員候補者が披露され、理事会として承認した。

3. 新選挙管理委員候補者（資料4）

松田理事長より、新選挙管理委員候補者が披露され、理事会として承認した。

4. 各種委員会新委員候補者（資料5）

松田理事長より、各種委員会新委員候補者が披露され、理事会として承認した。ただし、年会実行委員会委員候補者であった吉川 真氏については、後の議案でジュニアセッション実行委員会を新設し、その委員長となることを理事会として承認したため

に、年会実行委員会からははずれること、併せてその場合には当該委員会の委員数を11名から10名に減員することを認めた。

5. 2005年度事業計画書案（資料6）

杉山理事より2005年度事業計画書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

6. 2005年度収支予算書案（資料7）

関井理事より2005年度収支予算書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

7. 新事業について（追加資料）

祖父江副理事長からの提案に基づいて意見交換を行い、次の6項目の新提案がまとめられ、評議員会に諮ることとなった。(1) 日本天文学会百周年記念事業、その内容としては百年史編纂、記念切手発行、記念式典などが考えられる。(2) 欧文研究報告月刊化に向けて購読料減額、または無料キャンペーンを行う。(3) 学会事務所住環境の改善。(4) 学会事務所建物新設。(5) コンベンションセンターの活用などによる年会会場に対する支出。(6) 会費値下げ。例えば、正会員（学生）の会費を3,000円減額し、10,000円にする。ここで、(3)と(4)は、採用する場合にも、どちらか一方である。なお、教育普及講師派遣と欧文研究報告編集局局員の定員化については、すでに決定済みである。

8. 年会運営について（資料8）

福井評議員より、年会運営の方法について次の2点の提案があった。1つめは、年会実行委員会が、現状では企画セッションの採択の可否を行うなど、単なる実務的な役割を越えてSOCとしての役割を果たしているが、負担も大きいと考えられるので、この機会に年会運営の問題点を整理し、ガイドラインなどを示す必要があるのではないか、という提案であった。2つめは、林 忠二郎賞受賞者が受賞記念講演を年会中に行うべきである、という提案であった。前者について、現状は機動性を重視しているのであまり代えたくないという意見が、百瀬年会実行委員から出された。その後意見交換を行い、企画セッション、特別セッションについて、締め切りを早めることで、一つ前の年会中の理事会に年会実行委員会から提案、その場で審議し決定する、という方法が提案され、評議員会に諮ることとなった。年会の進むべき方向については、今後も議論をし、ガイドラインなどの制定をすることは必要である、との意見が出された。2つめの提案に関しては、林忠二郎賞、研究奨励賞のどちらか、又は両方とも、発表を現在の春から秋の年会に移し、総会后、受賞記念講演を行う方向が決定された。今年度（2003年

度)の林賞については、発表、受賞式はすでに終わっているが、記念講演会を秋の年会中に行うことが可能であるか、年会実行委員会で検討することとなった。

9. ジュニアセッション実行委員会設置について(資料9)

杉山理事より、標記委員会(日本天文学会の内規上は小委員会)新設に関する説明があった。現状では、年会中でのジュニアセッションはボランティアを中心に運営されている。その運営の母体を、正式な小委員会として認定したいという提案である。ジュニアセッション実行委員会に関する内規の制定、及び関連する内規(日本天文学会委員会等に関する共通内規等)の改正も含めて、承認され、評議員会に諮ることとなった。

10. プラズマ宇宙物理に関する共催セッションについて(資料10)

杉山理事より、事情説明があった。日本物理学会領域2(プラズマ物理関連分野)のアドバイザーボードからの提案で、日本物理学会、日本天文学会、日本地球電磁気・惑星圏学会において、交互にプラズマ宇宙物理に関する共催セッションを開きたい、という要望である。検討会に出席した百瀬年会実行委員より、詳しい説明があった。天文学会としては2005年の10月、または2007年の9月のどちらかで共催を引き受けたいこと、具体的な事務に関する合意としては、講演者に関しては世話人が集める、講演する人は非会員であったとしても、ホスト学会の人と同等の資格でその回の年会に参加できるように計らう、などである。意見交換を行った結果、日本天文学会としては、企画セッションとはほぼ同等のものであり、講演数の増加に関しては、現在行われているものより一日に限りパラレルセッションの数を一つ増やすことで対応できるのではないかということで、とりあえず、一回共催セッションを行ってみることを合意した。

11. 2004年秋季総会議題(資料11)

杉山理事より資料に基づいて提案があり、了承された。

12. その他

(ア) 欧文研究報告の翻訳に対する著作権について(追加資料)

欧文研究報告に掲載された論文を日本語に翻訳し、一般に公開したい、との希望が会員よりあり、蜂巢編集委員長が対応した経緯について説明を行った。自分自身の論文を日本語に翻訳したい、とい希望ではあったが、原文がネット

ワーク上での閲覧に関してアクセス制限がかかっている最近3年以内のものであることから、翻訳して自由に外からみることのできる状態にすることは望ましくない旨を伝えた。アクセス制限がかかっていない古い論文については、本人のものであれば、翻訳することを認める。その後、著作権法についての説明が蜂巢理事よりあった。現在の欧文研究報告、及び天文月報の掲載論文・記事に対する著作権に関する記述は「すべての著作権は学会に帰属する」となっている。しかしこの記述では、翻訳権・翻案権、および2次著作物の利用に関する権利が、日本天文学会側にあるかどうか明確ではないので、今後、著作権に関する表示や対応の見直しを行うこととなった。

(イ) 望遠鏡の寄贈について

本会元通常会員、太田 彬(故人)氏未亡人より5台の望遠鏡の処分について相談があった。杉山理事が、対応することとなった。

(ウ) 次回は9月21日(火)、秋季年会会期中の昼休み岩手大学で開催することとなった。

2004年7月20日

議長 松田卓也 印
署名人 杉山 直 印
署名人 郷田直輝 印

【評議員会議事録】

日時: 2004年7月10日(土) 11:00~15:15

場所: 国立天文台三鷹大会議室

出席者: 井上, 太田, 岡村, 小山, 柴田, 福井, 舞原, 安東, 家, 小杉, 観山, 山本 以上12名

欠席者: 池内 以上1名

有効委任状提出者: 海部, 加藤, 須藤, 千田, 高橋, 高原, 牧島, 吉井, 梅村, 大橋, 佐藤, 谷口 以上12名

他に理事会から、松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土居, 及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち、議長及び署名人を選出した。

議長: 岡村定矩

署名人: 太田耕司, 安東正隆

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年3月23日)の評議員

会議事録が報告され、承認された。

2. 2004年秋季以降の年会について

杉山理事より、2004年秋季（岩手大学）、2005年春季（明星大学）、2005年秋季（北海道大学、会場は札幌コンベンションセンター）で行われる予定の年会の準備状況等について説明があった。

3. 大学入試センター試験「地学」出題方式に関する要望書について（資料2）

杉山理事より、要望書作成の経緯と内容の説明があった。2006年度以降、大学入試センター試験において、地学Ⅰと物理Ⅰを同時に選択することができなくなることに、日本天文学会も含む地球惑星科学関連学会合同大会参加20学会会長・理事長名で、大きな危惧を抱いていることの表明と、合わせて制度の変更を求める声明文を送付するとのことであった。これまでに、大学入試センター理事長には、理事長宛の声明文を手渡した。今後は、文部科学省、国大協などへも要望書を提出する予定であるとのこと。今後の対応については、意見交換の結果、天文学会としても、初等・中等理科教育に関して大きな危機感を抱いていることから、改善のための方策を教育委員会を中心に今後検討していくこととなった。

4. その他

(1) 男女共同参画協会連絡会（追加資料）

天文学会も協力したアンケートの結果が資料としてまとまったので、披露された。

(2) 星座早見版

月の動きに関する新しい工夫に対して現在特許申請中の、『月の動きがよくわかる光る星座早見』（三省堂）が披露された。

(3) 学生旅費補助について（追加資料）

安東評議員より、資料に基づき若手の会が秋季年会に行ったアンケート結果が報告された。

議 題

1. 新役員候補者（資料3）

松田理事長より、理事会の審議を経た新役員候補者が報告され、評議員会として承認した。

2. 新選挙管理委員候補者（資料4）

松田理事長より、新選挙管理委員候補者が報告され、評議員会として承認した。

3. 各種委員会新委員候補者（資料5）

松田理事長より、各種委員会新委員候補者が報告され、評議員会として了解した。教育委員会については、小中高の理科教育に関する人員を増強すべきであるとの意見があり、理事会でさらに検討するこ

ととなった。

4. 2005年度事業計画書案（資料6）

杉山理事より2005年度事業計画書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

5. 2005年度収支予算書案（資料7）

関井理事より2005年度収支予算書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

6. 新事業について（資料8）

祖父江副理事長から理事会で検討を行った以下の新事業の提案が報告された。(1) 日本天文学会百周年記念事業、その内容としては百年史編纂、記念切手発行、記念式典などが考えられる。(2) 欧文研究報告月刊化に向けて購読料減額、または無料キャンペーンを行う。(3) 学会事務所住環境の改善。(4) 学会事務所建物新設。(5) コンベンションセンターの活用などによる年会会場に対する支出。(6) 会費値下げ。例えば、正会員（学生）の会費を3,000円減額し、10,000円にする。ここで、(3)と(4)は、採用する場合にも、どちらか一方である。なお、教育普及講師派遣と欧文研究報告編集局事務職員の常勤化については、すでに前回の評議員会で決定済みである。引き続いて意見交換を行った。(1)については、記念式典、祝賀会は年会中に合わせて行うべきであるとの意見が出され、さらに、天文学キャラバンのようなものを組織して全国的に一般向けの講演を行う、論文選集を編む、などの新たなアイデアも出された。百年史編纂については、記録としての意味、科学史として見地などからも、行うことに前向きな意見が多かったが、中途半端ではなく良いものを作る必要があることや、編集委員会の人選の難しさなどについて意見が交換された。編集委員として科学史の専門家を入れたらよいのではないかとの意見もあった。(2)については、その費用対効果について質問があり、前回の半額キャンペーンの成果について、理事会側から説明があった。(4)については、日本天文学会が不動産を持つことが、将来大きな負担となるのではないか、という懸念が複数だされ、全体としては否定的であった。(5)については、年会の会場費はできるだけ安い金額でやるべきであるとの意見が出され、やはり否定的意見が主であった。

7. 特別会計の基金化に関する提案（資料9）

関井理事より、資料に基づき、特別会計を基金化する必要性の説明と、そのための財務規程案が提案された。意見交換のあと、財務規程の文面を若干修正することとしたうえで、提案は承認された。

8. 年会運営について（資料10）

福井評議員より提案された年会運営の方法に関す

る2つの提言について杉山理事より紹介があり、福井評議員から補足説明があった。1つめの提言は、現状では年会実行委員会が企画セッションの採択の可否を行うなど、単なる実務的な役割を越えてSOCとしての役割を果たしているが、負担も大きいと考えられるので、この機会に年会運営の問題点を整理し、ガイドラインなどを示す必要があるのではないかと、いうものであった。2つめは、林忠四郎賞受賞者の受賞記念講演を年会中に行うべきである、という提言であった。前者について、土居年会実行委員長から現状の説明があった。その後意見交換を行い、当面は理事会からの提案である、企画セッション、特別セッションについて、締め切りを早めることで、一つ前の年会中の理事会に年会実行委員会から提案、その場で審議し決定する、という方法が認められた。年会のあり方、プログラムの編成の方法については、講演数の激増に伴って、これまでと同じやり方を続けるわけにはいなくなってきたことも認識され、今後もこの問題は、年会実行委員会、理事会、評議員会で継続して議論していくこととなった。2つめの提案に関しては、林忠四郎賞、研究奨励賞のどちらか、又は両方とも、発表を現在の春から秋の年会に移し、総会後、受賞記念講演を行う方向が決定された。今年度については、発表、受賞式はすでに終わっているが、林忠四郎賞受賞記念講演会を実際に秋の年会中に行うことが可能であるか、年会実行委員会で検討することとなった。

9. ジュニアセッション実行委員会設置について (資料 11, 12)

杉山理事より、標記委員会(日本天文学会の内規上は小委員会)新設に関する説明があった。現状では、年会中でのジュニアセッションはボランティアを中心に運営されている。その運営の母体を、正式な小委員会として認定したいという提案である。ジュニアセッション実行委員会に関する新たな内規案、及び関連する内規(日本天文学会委員会等に関する共通内規、天文教材委員会に関する内規、創立100周年記念出版事業編集委員会に関する内規)の変更案が資料12として示され、承認された。合わせて、この委員会を2005年度事業計画書案に盛り込むことも了承された。

10. プラズマ宇宙物理に関する共催セッションについて (資料 13)

杉山理事より、事情説明があった。日本物理学会領域2(プラズマ物理関連分野)のアドバイザーボードからの提案で、日本物理学会、日本天文学会、

日本地球電磁気・惑星圏学会において、交互にプラズマ宇宙物理に関する共催セッションを開きたい、という内容である。すでに検討会が開かれ、天文学会としては2005年の10月、または2007年の9月のどちらかで共催を引き受けたいこと、さらには、講演者に関しては世話人が集める、講演する人は主催学会では非会員であったとしても、共催学会の会員であるならば、主催学会の会員と同等の資格でその年の年会に参加できるように計らう、などの具体的な共催の実際についても合意がとれている。その後、日本物理学会領域2アドバイザーボードメンバーである柴田評議員より、補足説明があった。すでに理事会では、日本天文学会としてはこの共催セッションは企画セッションとほぼ同等のものであり、講演数の増加に関しては、現在行われているものより一日に限りパラレルセッションの数を一つ増やすことで対応できるのではないかとということで、とりあえず1回共催セッションを行ってみる、という合意を得ている。意見交換の後、評議員会としても、この合意を承認することとなった。

11. 2004年秋季総会議題(資料 14)

杉山理事より資料に基づいて提案があり、了承された。

12. その他

(ア) 欧文研究報告の翻訳に対する著作権について (資料 15)

欧文研究報告に掲載された論文を日本語に翻訳し、一般に公開したい、との希望が会員よりあり、蜂巢編集委員長が対応した経緯について、杉山理事より説明があった。自分自身の論文を日本語に翻訳したい、という希望ではあったが、原文がネットワーク上での閲覧に関してアクセス制限がかかっている最近三年以内のものであることから、翻訳して自由に外からみることのできる状態にすることは望ましくない旨を伝えたとのこと。資料に基づき、著作権法についての説明が杉山理事よりあった。その後意見交換が行われ、評議員会としては、原則として本人による二次使用に関する制限はできるだけ行わない方向が確認され、出典が明記さえされていれば、原文にアクセス制限がかかっていたとしても、翻訳、及びその公開については認めるべきであるとの結論となった。しかし、営利目的の使用をどう区別するのかなど、一部デリケートな問題があるのではないかと指摘もあった。

(イ) 天文学会創立100周年記念出版事業第一次案

について

岡村編集委員長より、第一次案が出来上がったこととその内容について説明があり、会員全員に対して意見を求める予定であることが報告され、その後意見交換が行われた。

(ウ) 次回は9月22日(水)、秋季年会会期中の昼休み岩手大学で開催することとなった。

2004年7月26日

議長 岡村定矩 印

署名人 太田耕司 印

署名人 安東正隆 印

男女共同参画学協会連絡会アンケート調査の結果について

昨年実施した上記調査の結果がまとまりました。このアンケート調査は、約40の理系の学協会(約40万人)を対象にしたもので、回答者数は約2万人、そのうち天文学会員の回答者数は259人でした。ご協力に感謝いたします。

集計結果からは採用、管理職登用、昇進等に男女差があるという結果がみてとれます。報告書は連絡会ウェブページ <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/> からダウンロードできます。また天文学会事務所に冊子が多少部数あります。ご希望の方はご請求下さい。

天文教育委員会 加藤万里子

(社)日本天文学会へ2004年3月23日～2004年7月2日までの間に入会、退会された方をお知らせ致します。

正会員入会者(58名)

佐々木俊二	東北大・大学院理(在学)	柄澤良和	東北大・大学院理(在学)
福士比奈子	東大・大学院理(在学)	横山正樹	名大・大学院理(在学)/太陽地球環境研究所
内海洋輔	筑波大・大学院(在学)	田坂 守	東大・理(在学)
渡辺健太郎	東大・大学院理(在学)/JAXA	浦口史寛	国立天文台・ハワイ観測所
山田健吉	東邦大・大学院理(在学)	小林 純	東邦大・大学院理(在学)/国立天文台
守 裕子	総研大(在学)/国立天文台	三谷烈史	東大・大学院理(在学)/JAXA
所 仁志	名大・大学院理(在学)	大住昌利	二葉写真館
新保 謙	東大・大学院理(在学)	久保井信行	東大・大学院理(在学)
土屋兼一	東大・宇宙線研究所	端山和大	国立天文台
越田進太郎	東大・大学院理(在学)/国立天文台	川本 司	北大・大学院理(在学)
北越康敬	東大・大学院理(在学)/国立天文台	一ノ清康裕	東海大(在学)
北口貴雄	東大・大学院理(在学)	荻原文恵	和歌山大・大学院(在学)
森田淳子	名古屋市立大・大学院理(在学)	有元 誠	東京工業大・大学院理(在学)
平栗慎也	東大・大学院理(在学)	戸倉大輔	東大・大学院理(在学)
鈴木麻乃	愛媛県総合科学博物館	吉田真希子	東大・大学院理(在学)
宮原 豪	鹿児島大・大学院理(在学)	猪俣則智	鹿児島大・大学院理(在学)
福江 翼	京大・大学院理(在学)	並木雅章	大阪大・大学院理(在学)
福谷義明	北大・大学院理(在学)	斉藤孝男	東京工業大・大学院(在学)
佐藤陽一郎	北大・大学院(在学)	鍛冶澤 賢	国立天文台
黒野泰隆	東大・大学院理(在学)/国立天文台・野辺山	梅津健一	総研大(在学)/国立天文台
恩田香織	東京理科大(在学)	白岩真弥	神戸大・大学院(在学)
加瀬啓之	東大・大学院理(在学)	福原和晴	北大・大学院理(在学)
白田晶人	東京工業大・大学院(在学)	情報通信研究機構	
小野健一	京大・大学院理(在学)	倉本祐輔	東京工業大・大学院(在学)
田村陽一	東大・大学院理(在学)/国立天文台	丹羽隆裕	神戸大・大学院理(在学)
松岡良樹	東大・大学院理(在学)	清水雅樹	京大・大学院理(在学)
森 英之	東大・大学院理(在学)/JAXA	小麥真也	東大・大学院理(在学)
西田圭佑	京大・大学院理(在学)	田中伸弘	京都産業大・大学院理(在学)
田中 薫	青山学院大・大学院(在学)	豊田英里	神戸大・大学院(在学)

準会員入会者 (9名)

鈴木 克	東北大・大学院理 (在学)	前澤裕之	名大・太陽地球環境研究所
渡辺康一郎	千葉県船橋市在住	原 秀夫	熊本市立熊本博物館
平濱美紀子	ディスカバリーパーク焼津	高橋光一	東北学院大
青井敏浩	広島大・大学院 (在学)	山田芳徳	広島大・大学院 (在学)
高橋拓也	広島大・大学院 (在学)		

移籍会員 (準→正 2名)

大野雅功	広島大・理	日下部展彦	東京学芸大・大学院 (在学)
------	-------	-------	----------------

正会員退会者 (6名)

飯沼勇伍 村岡雅江 野澤昭男 額賀 理 阿部博史 須川 力

準会員退会者 (5名)

竹口哲夫 大神孝明 澤 正樹 木佐貫 篤 武内澄夫

編集委員 土橋一仁(編集長), 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司, 亀野誠二, 濤崎智佳, 藤田 裕, 洞口俊博, 増田 智
平成 16 年 8 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2004 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)